

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月29日実施)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①自立と社会参加 を目指し「学びの連 続性」「個のニーズに 合わせた教育」を 推進する。	①作成した「教科指 導内容表」を活かし た指導案で実践を重 ね、小学部から高等 部までの系統性を整 理する。	①各教科において「教科指導 内容表」を基に実践を重ね、 内容表の検討・修正を継続す ると共に、小学部から高等部 までの系統性を検討する。	①各教科において、学 部間の系統性を考え た内容表の検討・修 正ができたか。	①4教科の教科 指導内容表を整 えた。	①教科指導内容表の作 成や活用の仕方を進めて きた教科会の今後のあり 方について整理が必要。 ②各学部年間授業計画 修正のタイミングで防災教育 全体計画表も修正する 他、指導内容表等活用し 学校全体の防災教育計 画を検討・体系化する。	〈学校運営協議会〉 ②学校として災害時後 の継続した活動への取 組等も引き続き考えていく 必要がある。 〈保護者アンケート〉 ②「防災対策等の整備」 について、90.2%の評価 を得た。	①4教科の「教科指導内 容表」を整えた。また、年 間授業計画に基づき授業 実践をし、「教科指導内容 表」の修正につなげた。 ②防災教育に関するデー タは収集できたが、学校全 体の検討・体系化までは 達成できなかった。	①全体で「教科会」の今 後のあり方について整 理し、系統性を意識した 「教科指導内容表」の有 効活用を進める。②防災 教育段階表、指導内容 表も活用しながら、学校 全体の防災教育計画を 検討し、体系化する。
	②児童・生徒の命 を守る教育を推進 する。	②学校全体の防災 教育計画を検討し、 体系化する。	②各学部・校務グループ安全防 災班と連携して、組織的に防 災教育計画を検討し、体系化 を進める。	②学校全体の防災教 育計画が検討・体系 化されたか。	①-1 各学部(学年)で 計画的にアセスメントが実 施できたか。 ①-2 研修を実施し、 各学級でアセスメントに基 づいた個別教育計画 を作成できたか。	①-1 各学部で計 画的にアセスメントを 実施した。 ①-2 アセスメント実 施後ケース会等実 施し個別教育計 画に反映させた。	〈保護者アンケート〉 ①「実態を的確に把握し た上で目標や手立てが 設定されている」につい て、96.7%の評価を得 た。 〈保護者アンケート〉 ②「近隣校や分教室設 置校との交流が共生社 会実現に向けた取組と なっている」については 69.0%で十分とは言え ない結果であった。	①各学部で計画的にアセス メントを実施し、実態把握に 努めた。アンケートから担任 が行うアセスメント実施や結 果の活用については、次 年度も研修の必要性があ る。 ②-1 交流学習が再開さ れ、各学部で内容を検討 し、実践することができ た。 ②-2 保土ヶ谷区や近隣 校の教員向けの研修を実 施し、授業体験や教材教 具紹介等で双方向の研修 を進めることができた。	①研修の継続と共にアセ スメント実施に関するQ& Aを作成し、担任がアセス メント実施や個別教育計 画作成に活かせるように する。 ②-1 コロナ後の行事の あり方について模索する と共に、内容について深 めていく必要がある。 ②-2 次年度も来校型研 修を計画し、本校の特別 支援教育のノウハウに ついて具体的に紹介す る機会を作る。
2 (幼児・児 童・) 生徒指導・ 支援	①アセスメントを充実さ せ、一人ひとりの 教育的ニーズに応じ たきめ細やかな指 導・支援を組織的 に行う。	①各学部(学年)で計 画的にアセスメントを実 施し、個別教育計画 に反映させる。	①-1 アセスメントに係る研修を実 施し、課題分析等職員の実 践力を向上させる。 ①-2 アセスメントから導かれた個 別教育計画作成の実情を把 握するため、教員アンケートを実 施する。	①-1 各学部(学年)で 計画的にアセスメントが実 施できたか。 ①-2 研修を実施し、 各学級でアセスメントに基 づいた個別教育計画 を作成できたか。	①-1 各学部で工 夫し、新たな交流 につながった。 ②-2 地域の教員 向けにサマーセナ を実施し、全参加 者60名から肯定 的な評価を得ら れた。	①-1 担任が行うアセスメント 実施を増やすため研修を 継続する。 ①-2 教員アンケートを実施し アセスメントの実施や結果の 活用に分かりにくさがある ことが判明。Q&A方式で 回答資料を作成した。 ②-1 交流の形・内容を 更に検討・定着を図り、 障がい理解を進める。 ②-2 来校型研修を引続 き計画し地域に呼びか ける。また地域の学校の 現状を本校教員が知る 機会を増やす。	①「実態を的確に把握し た上で目標や手立てが 設定されている」につい て、96.7%の評価を得 た。 〈保護者アンケート〉 ②「近隣校や分教室設 置校との交流が共生社 会実現に向けた取組と なっている」については 69.0%で十分とは言え ない結果であった。	①各学部で計画的にアセス メントを実施し、実態把握に 努めた。アンケートから担任 が行うアセスメント実施や結 果の活用については、次 年度も研修の必要性があ る。 ②-1 交流学習が再開さ れ、各学部で内容を検討 し、実践することができ た。 ②-2 保土ヶ谷区や近隣 校の教員向けの研修を実 施し、授業体験や教材教 具紹介等で双方向の研修 を進めることができた。	①研修の継続と共にアセ スメント実施に関するQ& Aを作成し、担任がアセス メント実施や個別教育計 画作成に活かせるように する。 ②-1 コロナ後の行事の あり方について模索する と共に、内容について深 めていく必要がある。 ②-2 次年度も来校型研 修を計画し、本校の特別 支援教育のノウハウに ついて具体的に紹介す る機会を作る。
	②インクルーシブ教育 に係る本校の役割 を模索し、推進す る。	②障がい理解を推進 するため、効果的な 交流学習及び近隣 校職員と双方向の研 修を進める。	②-1 効果的な交流学習のあ り方を検討し、実践につなげ ていく。 ②-2 近隣校教員との研修等 を行い、障がいのある児童生 徒への具体的な支援内容と 方法を共有する。	②-1 効果的な交流学 習のあり方を検討し、 実践することができ たか。 ②-2 研修会後のアンケ ートで90%以上の肯定 的な評価が得られたか。	①-1 各学部(学年)で 計画的にアセスメントが実 施できたか。 ①-2 研修を実施し、 各学級でアセスメントに基 づいた個別教育計画 を作成できたか。	①-1 各学部で工 夫し、新たな交流 につながった。 ②-2 地域の教員 向けにサマーセナ を実施し、全参加 者60名から肯定 的な評価を得ら れた。	①「実態を的確に把握し た上で目標や手立てが 設定されている」につい て、96.7%の評価を得 た。 〈保護者アンケート〉 ②「近隣校や分教室設 置校との交流が共生社 会実現に向けた取組と なっている」については 69.0%で十分とは言え ない結果であった。	①各学部で計画的にアセス メントを実施し、実態把握に 努めた。アンケートから担任 が行うアセスメント実施や結 果の活用については、次 年度も研修の必要性があ る。 ②-1 交流学習が再開さ れ、各学部で内容を検討 し、実践することができ た。 ②-2 保土ヶ谷区や近隣 校の教員向けの研修を実 施し、授業体験や教材教 具紹介等で双方向の研修 を進めることができた。	①研修の継続と共にアセ スメント実施に関するQ& Aを作成し、担任がアセス メント実施や個別教育計 画作成に活かせるように する。 ②-1 コロナ後の行事の あり方について模索する と共に、内容について深 めていく必要がある。 ②-2 次年度も来校型研 修を計画し、本校の特別 支援教育のノウハウに ついて具体的に紹介す る機会を作る。
3 進路指導・ 支援	①卒業後の生活を 見通し、小・中・高 それぞれのライフス テージに応じた進路指 導・支援を実施す る。	①進路の手引きの 内容を職員間で共有 し、各学部段階で身 につけたい力と具体 的な取組をまとめ る。	①-1 進路の手引きについて、 職員に向けた研修を実施す る。 ①-2 各学部段階でのキャリア教 育に関する指導内容表作成 に向け、学習内容を整理す る。	①-1 職員間で手引き の内容を共有すること ができたか。 ①-2 各学部で学習内 容を整理することがで きたか。	①-1 学部会や夏 休みに手引きを 活用した学習会 を実施。①-2 各 学部で身につけ たい力について 確認した。	①-1 研修の内容(話題提 供・動画の活用)や運営方 法の工夫が必要。 ①-2 各学部児童生徒の 実態に応じた身につけ たい力を確認し、学習活動 に取り組む。	〈保護者アンケート/学校運 営協議会〉 全学部において「進路指 導の充実」が今後に期 待することで1位。進路 に関する情報発信は、 94.0%の評価を得た。	①-1 各学部・分教室で、 それぞれ手引きを活用し た学習会を実施した。 ①-2 各学部段階での身 につけたい力について 確認できた。	①-1 今年度の実績を基 に教員研修として、研修 内容(福祉制度等の話題 提供・動画の活用)や運 営方法を検討し、実施に つなげる。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月29日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①学校運営協議会を活用し、地域との連携を推進する。	①-1「農園活用」「遊び場づくり」を地域との連携で進め、児童生徒の活動を充実させる。 ①-2 校内外へ情報を発信し、本校教育の地域理解を広げる。	①-1 地域との連携を通して、野菜作りに関するプロセスや活動を見直すことで、地域との連携や協働を深める。 ①-2 校内外への情報発信をして、関わる人の輪を広げる。	①-1 地域との連携により、児童生徒の活動が改善されたか。 ①-2 校内外へ情報を発信する機会を増やすことができたか。	①-1 厨房の野菜くずで腐葉土作り。給食に食材提供。スポーツ協会と連携して凧揚げ遊び実施。①-2 民生委員の方本校見学。近隣施設や企業からの受注作業請負う。	①-1 地区の収穫祭への商品提供では、収穫物の年間計画との調整が必要。遊び場作りは引き続き地域との連携を深め、遊びを充実させる。 ①-2 地域資源活用・地域貢献含め、積極的に情報を発信し、関わる人の輪を広げていく。	〈学校運営協議会〉 ①共生社会の実現に向けての地域との連携は重要。農園活用部会の時に、地域の方が手伝いに参加したり、地区のフェスティバルに作品を出したりできると良い。	①「農園活用」「遊び場づくり」共に、地域及びスポーツ協会と連携して活動することができた。さらに地域との連携や協働を深めるために、新たな視点も必要。	①地域の人材・資源活用、地域貢献も含め、地域との連携や協働を深めるため、次年度に向けて設置部会の活動内容等を見直していく。
		②センター的機能の更なる推進を図る。	②-1 地域を支援する人材の育成を図る。 ②-2 本校の特別支援教育のノウハウを発信する。	②-1 来校相談や出前授業を子ども支援班員が担当し、地域の学校の課題や地域を支援するための知識を得る。 ②-2 教材教具や支援の手立て等を学校訪問やホームページ等を活用し、情報発信の準備を進める。	②-1 校内の人材育成を図ることができたか。 ②-2 教材等の校内資源データを整理し、情報発信することができたか。	②-1 コーディネーターだより等で情報発信・共有。 ②-2 支援だよりを学校ホームページに掲載。教材等の校内資源データを整理し「支援の部屋」作成。	②-1 全校への情報発信(内容)を充実させる。班会議で定期的に情報共有。 ②-2 支援だよりの継続。また「支援の部屋」へのデータ収集や活用をさらに促進させる。	〈学校運営協議会〉 ②地域の学校への出前授業やセンター的機能で協力。今後も特別支援学校の役割は重要になっていく。 〈保護者アンケート〉 ②「地域や保護者への情報発信」について、81.5%の評価を得た。	②-1 班会議やコーディネーターだよりで情報共有し、地域の学校の現状や今日的課題について発信することができた。人材育成は十分達成できなかった。 ②-2 支援だよりを学校ホームページに掲載し、地域に本校での支援の様子を発信することができた。	②-1 コーディネーターだよりの情報発信を継続し、内容の充実を図る。年度当初に班会議での情報共有計画を立て実施していく。人材育成の充実を図る。 ②-2 支援だよりのホームページ掲載を継続する。教材等の校内資源データの収集・活用を促進する。
5	学校管理 学校運営	①事故不祥事防止を徹底する。	①-1【事故】不祥事防止会議・研修会において、事故・ヒヤリハット事例について職員で共有する。 ①-2【人権】各学部(学年)でテーマを設定、人権に配慮した行動に取り組む。	①-1【事故】毎月実施の研修会の他に、随時必要に応じて注意喚起を行い、情報を共有する。 ①-2【人権】各学部(学年)で、学期ごとに行動テーマを設定し、人権に配慮した行動に集中的に取り組む。	①-1【事故】事故・ヒヤリハット事例について、職員で共有できたか。 ①-2【人権】学部ごとにテーマを設定し取り組めたか。	①-1【事故】毎月実施の研修会で資料を活用し事例を職員で共有した。 ①-2【人権】「個人情報」の扱い「さん付呼称」等テーマを設定し取り組んだ。	①-1【事故】啓発・点検資料の活用以外に随時必要な情報を共有し、未然防止に努める。 ①-2【人権】次年度も学部ごとにテーマを設定し人権に配慮した行動に取り組む。	①-1【事故】〈保護者アンケート〉 事故・不祥事に関わる観点として「個人情報の管理・運用」「健康安全に配慮した取組」「会計報告」は、いずれも92～94%の評価を得た。 ①-2【人権】〈保護者アンケート〉「人権を尊重する丁寧な指導」の項目で92.9%の評価を得た。	①【事故・人権共通】毎月実施の研修会や各学部で人権に関するテーマを決めて取り組むことで、保護者からも高い評価を得ることができた。次年度も未然防止・人権に配慮した行動を維持する。	①【事故・人権共通】研修会をはじめ、学部・学年等でテーマを共有し、職員自ら随時行動を振り返り見直す機会を持ち、未然防止・人権に配慮した行動に取り組めるようにする。
		②児童生徒と向き合う時間を確保するため、校務の効率化を図る。	②効率化に向けて職員の意識を高め、業務の見直し・時間外勤務の是正を図る。	②-1 各学部・グループ等運営計画に「業務の効率化・縮減について」継続して位置付け、進める。 ②-2 新たに効率化を図った事項について見える化する。 ②-3 令和4年度からの取り組みについて企画会議で総括し今後の方針を検討する。	②各学部・グループで位置付けし、効率化を進めることができたか。	②各学部・グループ内で取り組み「R5業務の効率化・縮減」報告としてまとめた。	②次年度に向けて、さらに進めていく必要がある。業務の見直しを常に意識し、時間短縮だけでなく業務の質を維持した効率化を図っていく。	〈学校運営協議会〉 ②業務アシスタントを上手く活用して、職員の負担軽減につなげることもできる。	②各学部・グループ年間を通して業務の見直しを進めてきた。コロナ5類に伴い行事等が再開され、整理しながらの実施であったが、まだまだ改善の余地はあると思われる。引き続き学部・グループ業務及び学校行事のあり方について検討が必要。	②今年度(コロナ明け)の実績を基に、引き続き各学部・グループで業務の見直しを進め、時間短縮だけでなく質を維持した業務の効率化に向け方策を検討していく。

